

かつてない新年度のスタートに当たって

学校支援課長 山田 哲哉

突然の臨時休業に伴い、限られた時間の中で、各学校園において様々な取組を徹底、工夫していただいたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

「学校園再開ガイドライン」発出の日の朝、新聞で次の言葉を見付けました。
「あたりまえの日常に突然制限がかかってしまった」（新潟日報3/27「窓」欄：中央区14歳）

子どもたちは、先生方や友達との別れを惜しむ間もなく、1年で最も充実しているはずの3月を、学校で過ごすことができなくなりました。

社会全体が不安に包まれ、その不安が子どもたちにも大きな影を落としているかもしれません。外出もままならず、ストレスを抱えたままの子どもも大勢いるでしょう。

進級・進学への希望と不安から、ただでさえ落ち着かず、浮き足立つ3月を、子どもたちは、さらに不安定な状態で過ごすことを余儀なくされました。



その子どもたちが、幼稚園や学校に戻ってきます。
かつて経験したことのない新年度のスタートです。

私たち教育関係者は、不安定な子どもたちの様子をよくみながら、感染防止策を徹底し、万全の体制で迎えなければなりません。

保護者は、「うちの子が感染したら…」 「家族が感染したら…」 と大きな不安を抱えながら、子どもたちを送り出すこととなります。

子どもや保護者の不安を解消すること。「密閉」「密集」「密接」の3条件を可能な限り回避することと、子どもたちの新年度の学校生活への意欲付けを両立させること。これらは極めて難しい課題です。

「学校園から感染者が出たらどうするか」というクライシス・マネジメントを想定しつつも、まずは、「学校園で感染が広がらないようにどうするか」というリスク・マネジメントが求められます。

先日発出したガイドラインに基づきながら、各学校園で、その実態に合った具体的な方策を工夫し、新メンバーでスタートするチーム学校全体で、この難題に立ち向かってほしいと願っています。次のような子どもの声に応えるために。

- ・「教えてもらうのは当たり前ではなくありがたいこと」と気付きました。今後、学校が再開されたら、授業を受けられることに感謝して、今まで以上に積極的に学びたいです。（新潟日報 3/30「窓」欄：中央区14歳）
- ・早く学校に行って友だちと遊びたいです。（同：秋葉区9歳）
- ・ウイルスに気を付けて学校を再開してもいいとニュースで聞いたのでうれしいです。（中略）六年生になっても元気に笑顔で過ごしたいと思います。（同：東区11歳）

当たりの日常が一刻も早く訪れることを願い、私たち学校支援課も、精一杯サポートいたします。よろしく願いいたします。